

四つの顔のスーパーマン

小田 孝太郎

「だれも自分を生んでくれと頼んでない。」

と大声で母に向かって、とんでもないことを言った。ぼくは、反抗期真っ只中なのか、母の言葉一つ一つにイラッときたり、モヤモヤしたりする。その後、一人になり大好きな四コマ漫画を描いてクールダウンしていた。母の顔を四つ描いた。吹き出しに何と書くか迷っていたら、四つの顔をもつ母が浮かんだ。

- 一. 小学校の教壇に立つ四年生の担任の先生。
- 二. ぼくの所属する陸上クラブの役員の会長。
- 三. 娘として年老いた両親を世話する介護人。
- 四. ぼくのお母さん。

ぼくの母は、毎日忙しく動き回っている。

小学校の先生をしている母の手は、おしゃれなお母さんのネイルをした手とちがって、赤ペンや絵の具や版画のインクがついていることがある。帰ってから一行しか書いていない日記に、いっぱい返事を書いている。今はコロナの影響で、オンライン授業の準備に追われている。だから益々おしゃれから遠のいているが、教師という仕事が好きで誇りを持っているらしい。そこで吹き出しに、日本一の小学生の先生はこの私ですと書いた。

ぼくの所属する陸上クラブは、コーチと保護者がボランティアのため、会長の母は日が沈むとライトを照らしたり、バトンを消毒したりしている。レクリエーションがコロナのため難しい中、盛り上がる内容のレクリエーションを考え、実行してくれた。保護者の中心となって頑張っている。そこで吹き出しに、日本一のスポーツクラブの保護者代表の会長はこの私ですと書いた。

ぼくのおじいちゃんとおばあちゃん。最近もの忘れが多くなったり、同じことを繰り返し言ったりするようになった。ぼくはつい、「さつきも同じことを言ったよ。」

と言ってしまふ。おばあちゃんとおばあちゃん。理由を聞くと、物忘れが進んでいる人に強く否定するようなことを言うのではなく、時には優しいいうそも必要であるからと教えてくれた。自信をなくさないように、温かく両親のお世話をしている日本一の介護人はこの私ですと書いた。

そして、ぼくのお母さん。相変わらず雷が落ちることもあるし、小言も多いので、すぐ反発してしまふ。最近、反発しても昔みたいに怪獣のように怒らなくなったが、それが寂しくも思えるのはなぜだろう。でも、ぼくが大会でベストを出すと泣いて喜び、悲しいことがあると一緒に解決策を真剣に考え、背中を押してくれる。日本一のぼくの応援団長はこの私ですと書いた。

こうして四コマ漫画が完成した。四つの顔をもつ日本一のスーパーマンの母だ。この四コマ漫画を「ありがとう」にかえてそっと渡した。母は大粒の涙と最高の笑顔だった。

評価のポイント

四つの顔をもつ母をしっかりと観察している。自分の思いを丁寧に表現している点も素晴らしい。